

お茶の水女子大学での留学生活

カレル大学

シュプリニャロヴァー・エヴァ

私はチェコのカレル大学からお茶の水女子大学に交換留学生として来たシュプリニャロヴァー・エヴァと申します。2021年の後期からお茶の水女子大学の授業を受講しました。先学期コロナ感染の影響で日本に入国できなくて、オンラインで授業を受けましたが、今学期はとうとう対面授業に参加できました。これから日本での留学生活について話したいと思います。

日本に来る前に心配していたことが多かったです。様々な入国制限があった時でしたし、生まれて初めて飛行機に乗る時だったので、非常に気になっていました。しかし、結局無事に日本に来られて、入国直後の手続きも問題なくできました。お茶大に来た時、茗荷谷駅の周りは思ったより静かで、世界の最大都市の一つ、賑やかな東京都ではないような気がして驚きました。お茶大のキャンパスは小さくても、安全で、きれいな図書館や新しい学生寮があります。

先学期と同じように日本語能力の上達を中心とする科目を選びました。今学期は



留学生のための授業だけでなく、お茶大生向けの科目の一つも受けました。それは、萩原先生の「日本語教育学概論Ⅰ」という科目でした。日本語を母語としない学習者にどのように日本語を教えたほうが良いかを学びました。教授法やコースのデザインについてディスカッションをしたり、教材を分析したりしました。ネイティブの方々と一緒に授業を受けたおかげで、チェコと比べた日本の教育法の違う点に気づきました。日本語の先生になった場合は、その良かったと思った点をチェコでの授業に当てはめたいと思います。

留学生向けの科目の中で印象が残ったのは、「日本事情演習 2A」です。防災と減災について学んで、お茶大に来る留学生のためのガイドブックを作成するという課題がありました。そのガイドブックを作成するために、日本で発生した災害について情報を調べたり、防災施設に行ったりしました。日本の防災システムはとても良く考えられたことだと感じました。

授業以外には、お茶大の国際教育センターで行った文化教室、特に香道教室、生け花教室と歌舞伎鑑賞教室に参加しました。そして、日本にいるうちに、暇な時にたくさん旅行しました。東京にある観光地だけでなく、関西地方や富士山、鎌倉などを見に行きました。

今学期もお世話になった方が多いので、ここで感謝の気持ちを伝えたいと思います。最初に、指導教員の埋忠先生に、毎月振り返りシートを確認したり、卒業論文のための勉強会を行ったりしていただいて、誠にありがとうございます。次に、お世話になった交換留学生指導室の萩原先生と松田先生、受けた授業の担当



教員の先生方、たくさん興味深いことを教えてくださって、感謝しています。最後に、入国や日本での生活に関する手続きにご協力いただいた国際課の大野さんと、銀行の手続きや日常生活のことを手伝ってくださったチューターの平石奈都子さんにもお礼を申し上げます。

この半年が速く経ったのは少し残念だと思いますが、日本での生活を通して様々な国の方に会って、自分の視点を広げることができて、非常に嬉しいです。お茶大で経験したことは素敵な思い出になりました。